

治療・セルフケア継続アシスト

慢性疾患の長期治療では、患者の約50%が適切に継続できていないとされ、治療継続の支援は世界的な課題です。医療・ヘルスケア事業では、「始めても続かない」ことが成果を阻む最大の壁になっています。こうした継続課題に対し、AIが個人特性や行動データに応じて働きかけを最適化することで、服薬やセルフケアの継続率向上を支援します。

想定顧客

製薬企業、医療機器メーカー、健保組合、医療保険企業、医療・介護施設の療養・リハビリ部門

顧客課題の声

- ・ 「初回説明まではうまくいっても、その後に続かない」
- ・ 「患者ごとに離脱理由が違い、一律の通知では効かない」
- ・ 「治療継続がアウトカムや事業価値に直結している」



従来技術課題（LLMとの比較）

- ・ 一度きりのメッセージ生成に留まり、**離脱しやすいタイミング**への追従が弱い
- ・ 目標設定、モニタリング、通知、習慣形成の評価の一連のプロセスを**体系的に設計**出来ない
- ・ 個人差に合わせて、介入を**継続的に更新・改善**していく仕組みが弱い

プランニング結果

長期的な行動の定着を目的として、**無理なく続けられる仕組み**を提供することで、自律的な習慣形成を支援します。

理論的根拠① 行動原理 (Mechanism of Actions)



08
TDF
Intentions

意図 (No.8)

- 行動を実行するという意思決定、または特定の方法で行動するという決意
- 例「今日から毎晩、寝る前に歯間ブラシを使うと決めた。」



09
TDF
Goals

目標 (No.9)

- 個人が達成したいと望む成果や最終的な心理状態
- 例「3か月で体重を2kg減らすことを目標にしている。」



14
TDF
Behavioral Regulation

行動の制御 (No.14)

- 行動を管理または変更するための行動・認知・感情に関するスキル
- 例「食べ過ぎないように、先に小皿に取り分けるようにしている。」



24
BCT
Behavioral Cueing

きっかけ (No.24)

- 外部環境、刺激等から特定の行動が引き起こされるプロセス
- 例「アラームが鳴ると服薬するようにしている。」

アプリケーション設計

アプリ画像

- 個人特性に応じた**パーソナルメッセージ**
- 行動データから最適な介入を学習し、**メッセージを更新**
- 継続しやすい「**きっかけ**」や日常ルーティンを設計
- 離脱兆候に応じた**リマインド**や**励まし**で、習慣定着を支援

理論的根拠② 介入技法 (Behavior Change Techniques)

目標(No.1)、モニタリング(No.2)、通知(No.7)、習慣形成(No.8-3)、自信(No.15)など